

令和元年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

3 プログラム構成のねらい

(第1回本会議グループ討議及び実行委員による検討より)

テーマ設定理由

- 今年度の協議事項「当事者の声を反映させた協議会活動を考える」に即して、当事者の方の声をしっかり受け止めていく。障害や難病のある方の声を率直に届けたい。
- うまくいく事例ばかりではない。頓挫していたり、なかなか地域で受け止めきれずに、病院に入ってしまったりする方もいるので、そういう意味では、もう一步、当事者性や支援のあり方というものを深められる企画ができれば良いのではないか。
- 障害当事者といっても、障害種別に関していうと多岐にわたる。また、発言時間も長めにした方がいい場合もあるので、2年間計画で考えても良いのではないか。
- ダイレクトに、本人の声に耳を傾けるということは支援者として当然必要。社会の側もそういうスタンスで臨まないといけないのではないか。
- なかなかオープンに一般の人達に伝えきれていないところがあるのではないか。できるだけ広く、いろいろな方に聞いてもらえるような情報発信のあり方とか、企画の切り口みたいなところは考えていっても良いのではないか。
- 「共生社会の実現」と言われているが、障害のない人が主導の社会に、障害のある人を包み込もうとする考え方から抜け出せていないのではないか。また、私達は、自覚しているかどうかに関わらず、多様性の中で生活しており、このことを一層自覚して「ともに生きる」ことの意味を考えたい。
- 障害や難病のある人が日々の暮らしの中で感じていることに耳を傾け、「誰もが暮らしやすい豊かな社会」のあり方を考えたい。

4 参加者アンケート

回答数：155 (回収率：82.0%)

第1部 基調講演

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
107 (69.0%)	44 (28.4%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)

<自由意見>

- 障害者の方にとって生きやすい社会とは、そうでない人にとっても生きやすい社会だという言葉に共感しました。野澤さんの話を聞くのは数回目ですが、いつも新鮮で刺激的です。
- 「多様性」のあり方について、とても勉強になりました。特に終盤、学生とALSの当事者とのやりとりで学生が発言した「やっと本物の社会とつながれた感じがする」という言葉は印象に残りました。

第2部 パネルディスカッション

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
93 (60.0%)	55 (35.5%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)

<自由意見>

- 役所からの郵便物が難しいという言葉にはっとさせられました。どうすれば皆が読みやすくわかりやすい文章を作成できるか考えていく必要があると思いました。
- 自分の尺度ではなく「障害者」の方の目線に立った考え方をしていきたいと改めて思いました。日々学ばなければいけませんね。
- こうしたセミナーで盲ろう者の方はあまり取りあげられなかったと思うので良かったです。